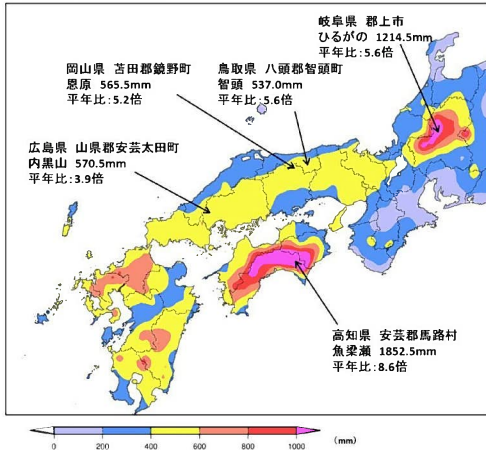


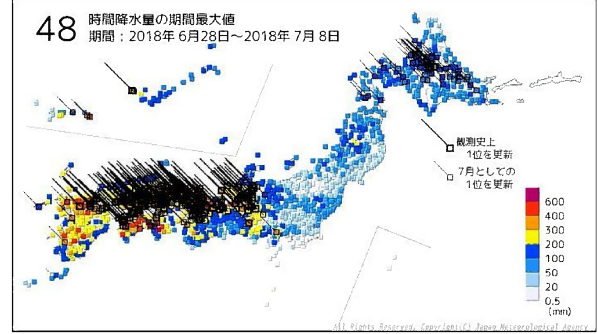


# 平成30年7月豪雨の雨量の状況

## ■6月28日から7月8日までの総降水量（アメダス）とその期間での降水量平年比

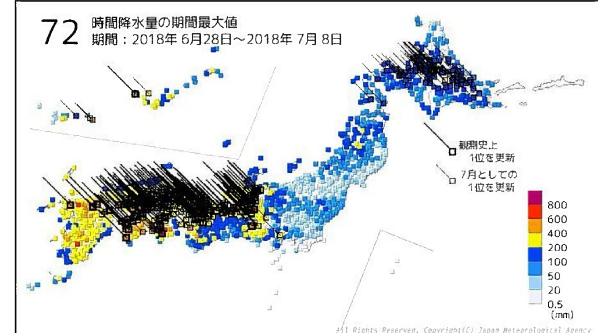


## ■6月28日から7月8日までに観測された最大48時間雨量（アメダス）



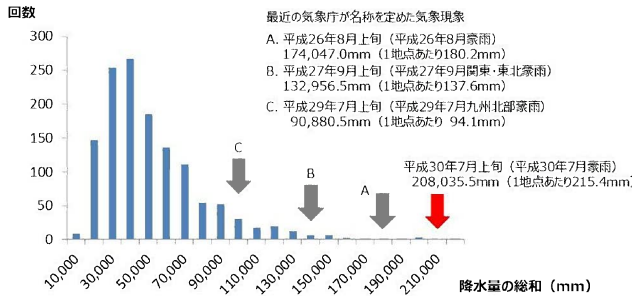
観測史上 1位を更新した地点数: 125地点  
7月としての 1位を更新した地点数: 239地点

## ■6月28日から7月8日までに観測された最大72時間雨量（アメダス）



観測史上 1位を更新した地点数: 123地点  
7月としての 1位を更新した地点数: 264地点

## ■全国のアメダス地点（比較可能な966地点）で観測された降水量の総和（1982年1月上旬から2018年7月上旬における各旬の値の度数分布）



# 平成30年7月豪雨による被害状況

- 前線や台風第7号の影響により、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、1府10県に特別警報が発表されるとともに、各地で河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、1府13県で200名を超える死者・行方不明者が発生するなど甚大な被害が発生。
- 電気、水道等のライフラインの被害のほか、道路、鉄道等の交通インフラにも甚大な被害が発生。

### 被害状況等<sup>※1</sup>

- ・人的被害（11/6時点）  
死者224名、行方不明者8名
- ・家屋被害（11/6時点）  
全壊6,758棟、床上浸水8,567棟
- ・避難所避難者数  
最大 約4.2万人（7/7時点）  
⇒11/5時点で119人
- ・電力  
最大 約8万戸停電（7/7時点）  
⇒7/13復旧<sup>※2</sup>
- ・上水道  
総断水戸数 263,593戸  
⇒岡山県内: 7/26断水解消<sup>※3</sup>  
広島県内: 8/9断水解消<sup>※3</sup>  
愛媛県内: 8/13断水解消<sup>※3</sup>
- ・鉄道  
最大 32事業者115路線運転休止（7/7 5:00時点）  
⇒10/9時点で4事業者6路線運休中
- ・高速道路  
最大 17路線19区間被災による通行止め（7/8 5:00時点）  
⇒9/27までに全ての通行止め解除



浸水被害  
（岡山県倉敷市真備町）



鉄道の被害  
（広島県東広島市 JR山陽線）



道路の被害  
（広島県安芸郡坂町 広島呉道路）



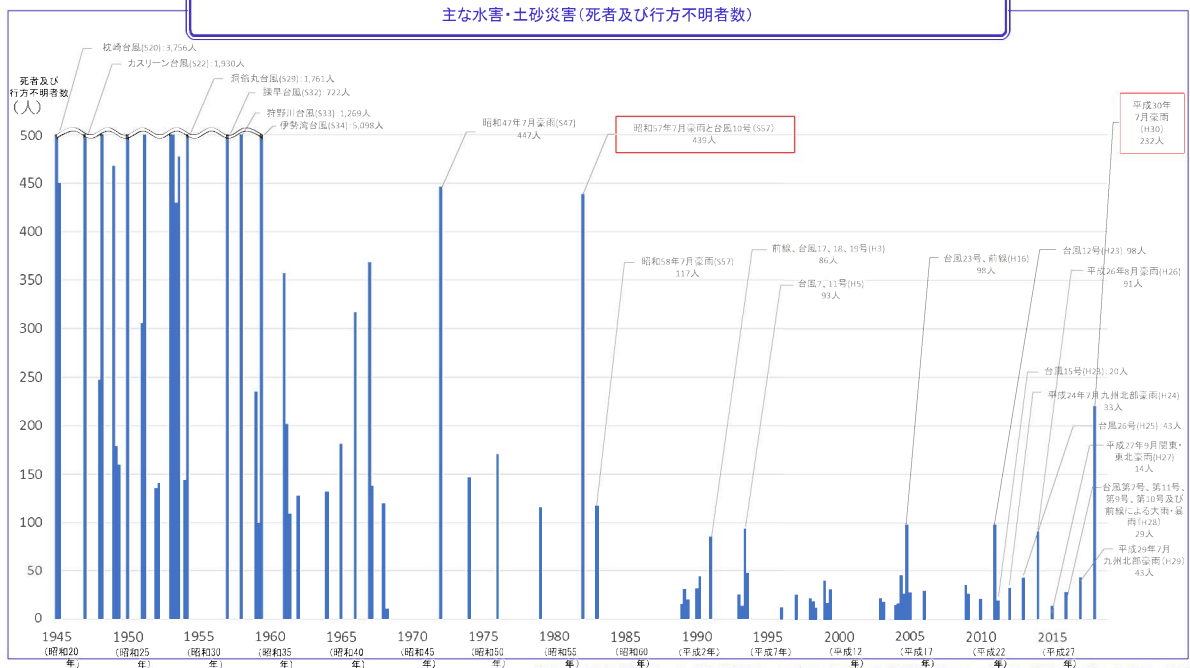
浄水場の被害  
（愛媛県宇和島市 吉田浄水場）

※1 平成30年7月豪雨による被害状況等について（内閣府）、平成30年7月豪雨及び台風第12号による被害状況及び消防機関等の対応状況（消防庁）資料、平成30年台風第7号及び前線等による被害状況等について（国土交通省）、平成30年7月豪雨に係る初段対応検証チーム（第2回）資料より作成  
 ※2 住民が居住する地域  
 ※3 大雨により大きな被害が発生し、住民が避難している地域で、地域の復興に合わせて水道も復旧・整備する予定の地域（愛媛県松山市10戸、西予市32戸）を除く。



# 平成30年7月豪雨による被害の特徴

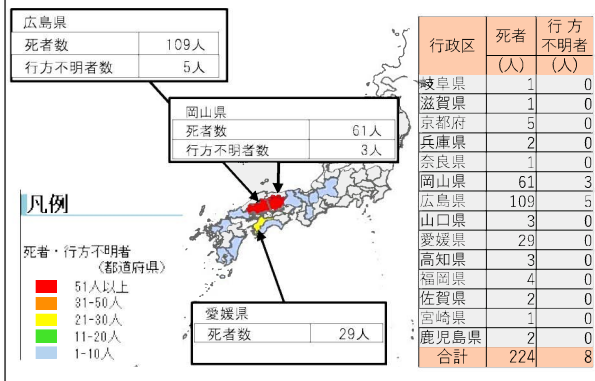
○平成30年7月豪雨は、近年、発生した水害・土砂災害としては、死者・行方不明者数が極めて多いことが特徴（一つの災害で死者・行方不明者が200人を超えたのは「昭和57年7月豪雨と台風10号」※以来となる。）。



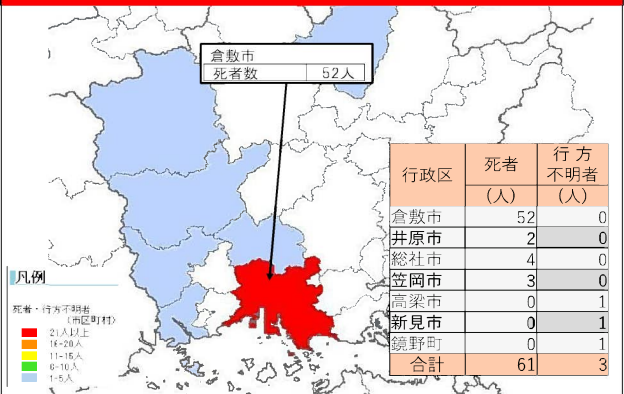
気象庁：災害をもたらした気象事例から、死者及び行方不明者数が10人以下のもの及び雪によるものを除いて作成  
 ※政府の非常災害対策本部は「昭和57年7月及び8月豪雨非常災害対策本部」として設置されており、昭和58年消防白書において、被害状況は昭和57年7月豪雨と台風10号によるものを1つの災害として分けずに整理されている。

# 平成30年7月豪雨による人的被害の状況

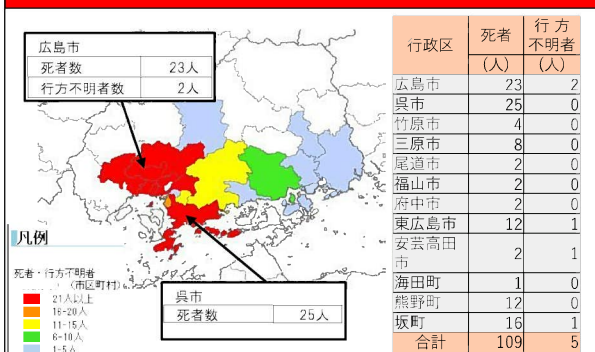
## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【全国】



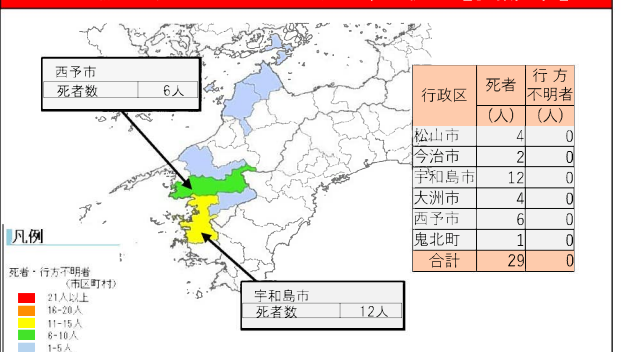
## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【岡山県】



## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【広島県】



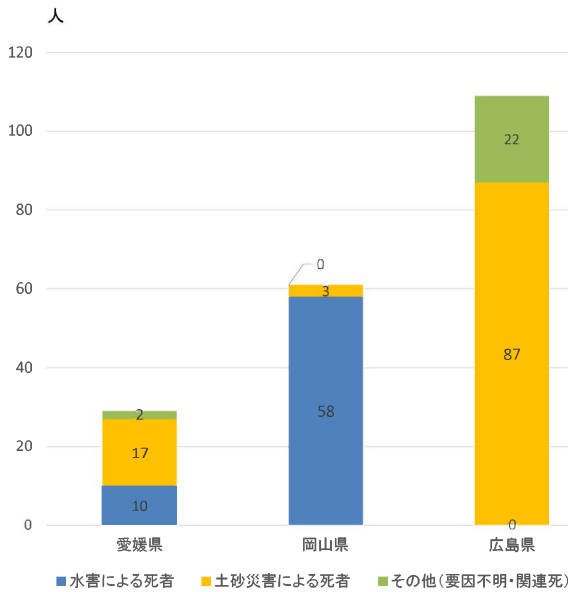
## 人的被害(死者・行方不明者)の状況【愛媛県】



※消防庁H公表資料「平成30年7月豪雨及び台風12号による被害状況及び消防機関等の対応状況(第58報)(平成30年11月6日10:00現在)」をもとに内閣府にて作成

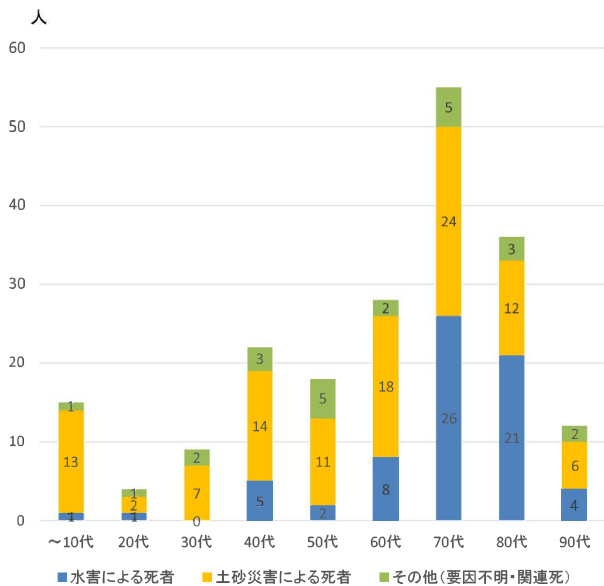
## 平成30年7月豪雨による人的被害の特徴

- 被害の大きかった愛媛県、岡山県、広島県での原因別死者数をみると、広島県では土砂災害による死者数が、岡山県では水害による死者数の占める割合が多かった。
- 上記3県の死者数のうち、60代以上の割合が約7割であった。



3県の原因別死者数

3県からの提供データをもとに内閣府にて作成



3県の年齢別死者数

## 平成30年7月豪雨による堤防の決壊等の状況

- 国管理河川では、高梁川水系小田川の2箇所<sup>（表）</sup>で決壊。
- 都道府県管理河川では、豪雨となった広島県で12河川16箇所、岡山県で10河川16箇所など、35箇所<sup>（表）</sup>で決壊。



### ●決壊箇所一覧

#### 国管理河川(2箇所)

No.	管轄府県	水系	河川	市町村	箇所数
ア	中国	高梁川	小田川	倉敷市	1
イ	中国	高梁川	小田川	倉敷市	1

#### 都道府県管理河川(35箇所)

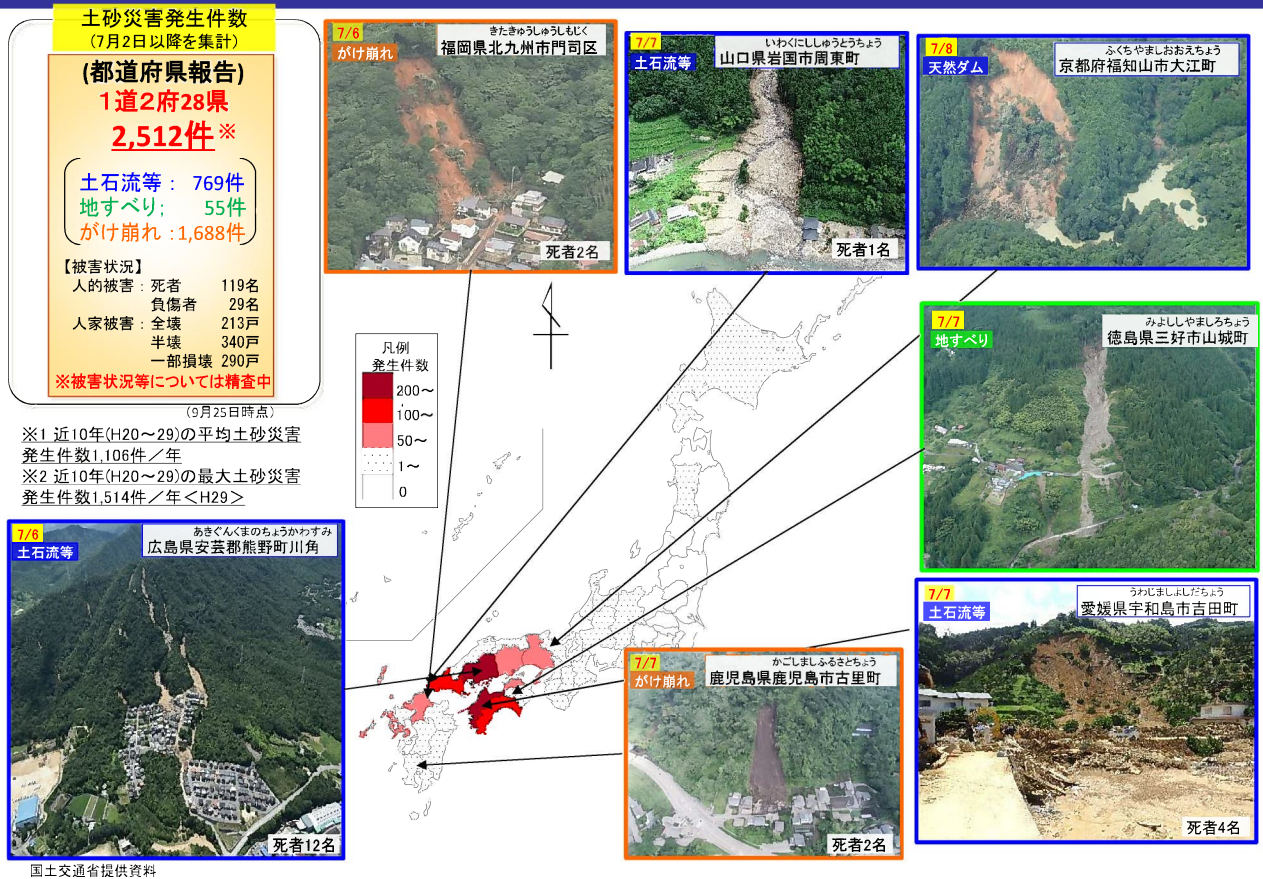
No.	県	水系	河川	市町村	箇所数
1	鳥取	宍粟川	八戸川	江津市	1
2	岡山	高梁川	高梁川	岡山市	1
3	岡山	高梁川	砂川	岡山市	1
4	岡山	高梁川	高梁川	倉敷市	2
5	岡山	高梁川	小田川	矢野町	3
6	岡山	高梁川	美郷川	倉敷市	3
7	岡山	高梁川	高良川	倉敷市	2
8	岡山	高梁川	高良川	倉敷市	1
9	岡山	高梁川	岩倉川	井原市	1
10	岡山	高梁川	高良川	笠岡市	1
11	岡山	高梁川	高良川	井原市	1
12	広島	高梁川	高良川	広島市	1
13	広島	高梁川	高良川	福山市	1
14	広島	高梁川	高良川	広島市	1
15	広島	高梁川	高良川	東広島市	1
16	広島	高梁川	高良川	三原市	3
17	広島	高梁川	高良川	三原市	1
18	広島	高梁川	高良川	三原市	1
19	広島	高梁川	高良川	三原市	1
20	広島	高梁川	高良川	三原市	1
21	広島	高梁川	高良川	三原市	1
22	広島	高梁川	高良川	三原市	3
23	広島	高梁川	高良川	三原市	1
24	山口	高梁川	高良川	南海市	1
25	福岡	高梁川	高良川	大川市	1

計37箇所

H30.10.9 15:00時点



# 平成30年7月豪雨による土砂災害の発生状況



# 平成30年7月豪雨による治山関係の被害状況

- 発達した梅雨前線等が西日本を中心に記録的な大雨を降らせ、各地で甚大な被害が発生
- 治山関係被害(林地荒廃、治山施設)は、2,875箇所(1道2府31県:2018年12月5日現在)





# 平成30年7月豪雨によるため池に関する被害状況

**ため池決壊件数**

**(都道府県報告)**  
2府4県  
**32件**

【被害状況】  
 人的被害：死者 1名  
           負傷者 4名  
 人家被害：全壊 1戸  
           床下浸水 8戸

(10月9日時点)

**被災状況** 広島県 乙池・大池・横池(重ね池)

写真① 大池

写真② 横池

**被災状況**

勝負迫上池・勝負迫下池

被災家屋

3連の重ね池のうち、上流側の横池と大池が決壊。ただし、下流の乙池は土砂流入のみで決壊には至らなかった。

決壊による濁流の流入のため下流の小学校が一時孤立。

ため池上部のグラウンドの前壊による土砂流入により、ため池が決壊。ため池下流において、1名死亡、4名負傷。

## 高梁川水系小田川における浸水状況【岡山県】

○高梁川水系小田川では倉敷市真備町で堤防が決壊し、大規模な浸水により甚大な被害が発生したほか、堤防の損傷が多数発生した。

位置図

**<小田川(国管理区間等)の被災状況>**  
※国管理区間に流入する県管理区間も含む

浸水面積：約1,200ha(77km<sup>2</sup>)  
 浸水戸数：約4,800棟(11,800親石)  
 堤防の決壊：2箇所(国管理)  
 堤防の損傷：6箇所(県管理)  
 堤防の崩れ：6箇所(国管理)  
 1箇所(県管理)  
 越水：4箇所(国管理)

【堤防の決壊】L=100m 小田川左岸3k400付近

【堤防の決壊】左岸L=200m 右岸L=300m 末政川左右岸0k700付近(県)

【堤防の決壊】L=20m 末政川左岸0k400付近(県)

【堤防の決壊】L=50m 小田川左岸6k400付近

【堤防の決壊】(県) 左岸L=20m(高梁川左岸0k付近) 右岸L=100m(高梁川右岸0k100付近)

【堤防の決壊】L=30m 小田川右岸0k600付近

【越水】右岸2k600、3k200付近

【堤防の決壊】L=100m 小田川右岸2k800~3k600付近

【越水】右岸7k000付近

【堤防の決壊】L=50m 大武谷川(県)小田川合流点付近

【堤防の決壊】L=100m 真谷川左岸0k300付近(県)

【堤防の崩れ】L=70m 小田川右岸4k400付近

【堤防の崩れ】L=16m 小田川右岸4k200付近

【堤防の崩れ】L=15m 小田川右岸4k200付近

【堤防の崩れ】L=80m 小田川左岸4k200付近

【堤防の崩れ】L=50m 小田川右岸0k600付近

【越水】右岸4k000付近

【堤防の崩れ】L=150m(点在) 小田川右岸2k800~3k600付近

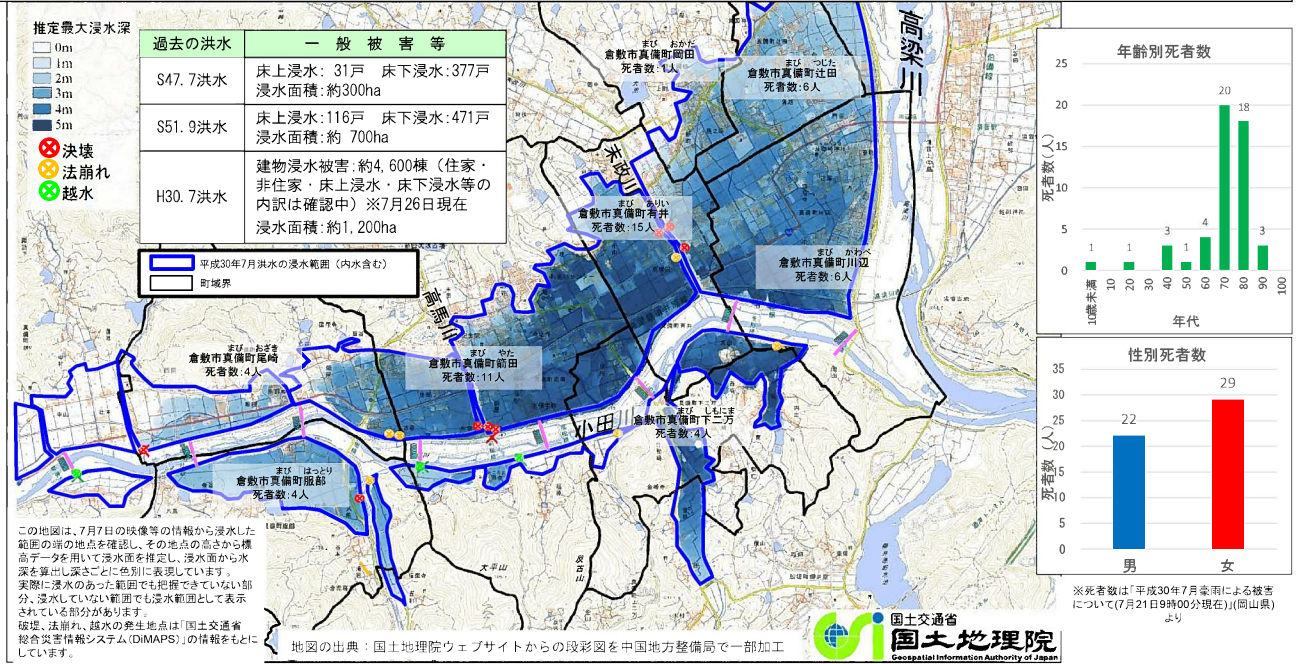
※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

国土交通省「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会」資料より引用



# 倉敷市真備町の浸水状況（人的被害）

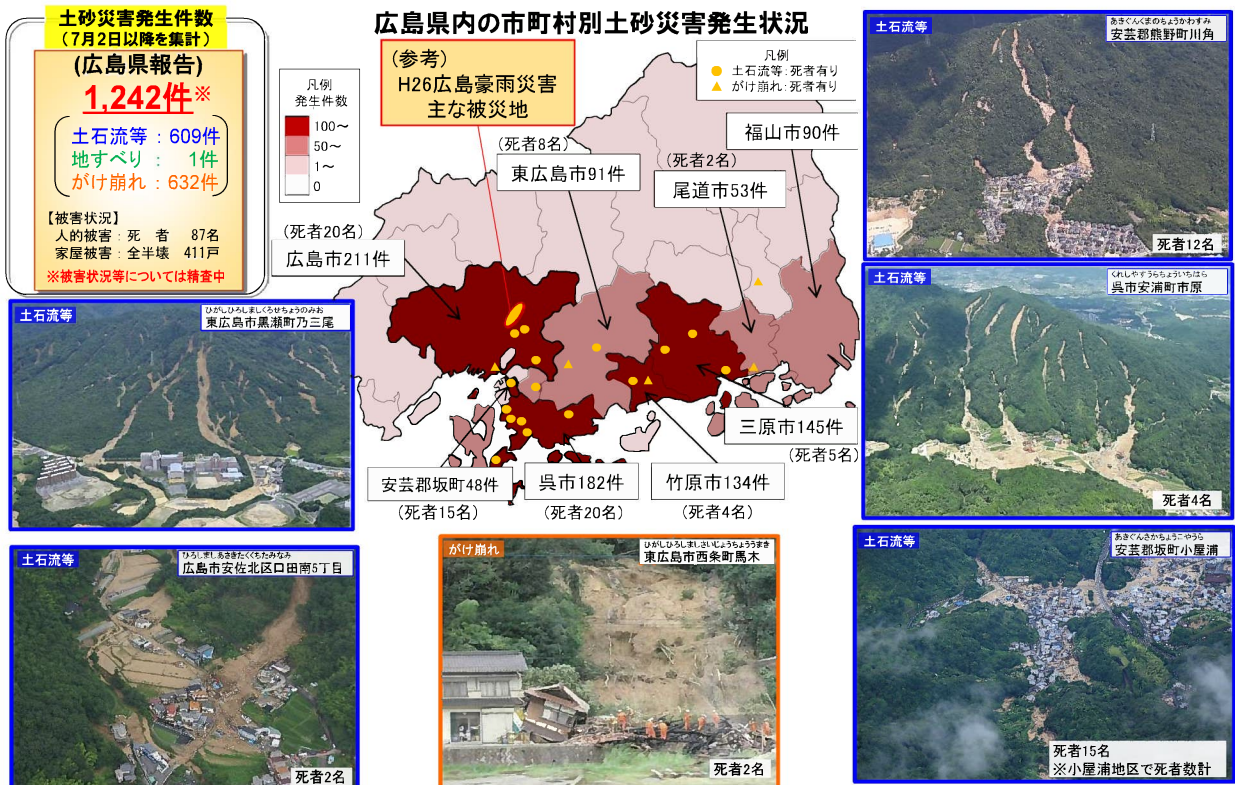
- 平成30年7月豪雨において市町村別死者数が最大となった倉敷市の死者52人のうち、51人が真備町に在住。
- 特に、末政川と高馬川の間に位置し、浸水深が深い有井地区、箭田地区で死者が多く発生。
- 年齢別では、70代以上の高齢者が約80%と著しく集中。
- 空中写真から判読の流出家屋は7箇所のみであり、真備地区での犠牲者のほとんどが、非流出家屋の屋内で遭難の可能性。（平成30年7月豪雨による人的被害等についての調査（速報）：静岡大学防災総合センター教授 牛山素行）



国土交通省「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会」第一回資料をもとに作成

# 平成30年7月豪雨による広島県の土砂災害発生状況

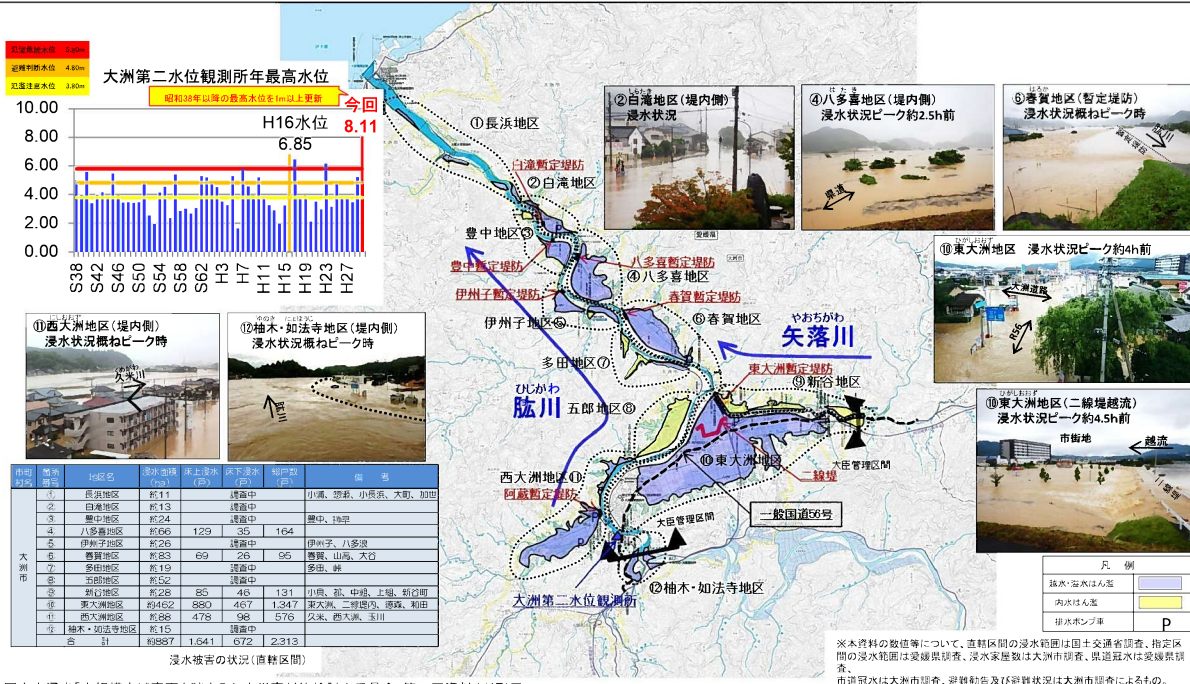
(10月29日時点)





## 肱川における浸水状況（東大洲地区等）

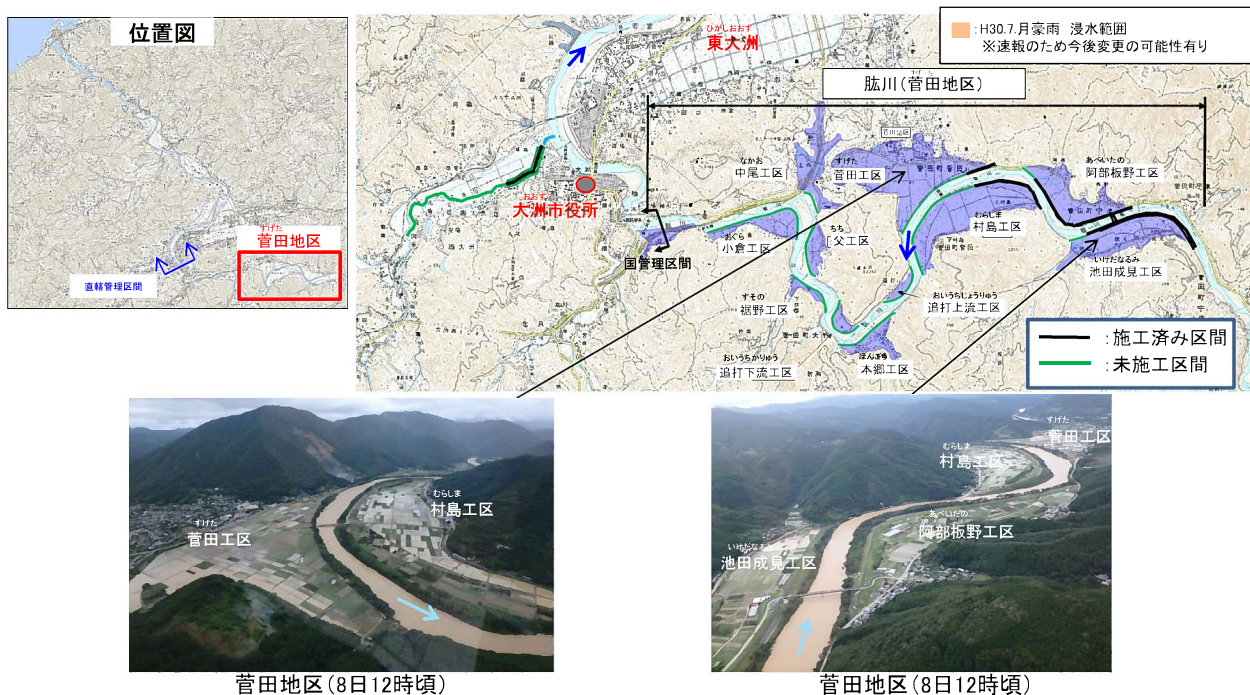
- 平成30年7月豪雨により、大洲市全域で浸水家屋数3,114戸（床上2,296戸、床下818戸）の被害が発生（8月30日19時現在大洲市調べ）。
- 直轄区間においては阿蔵地区をはじめ、全ての暫定堤防箇所で越流。東大洲については、二線堤からも越流し、主要国道56号の冠水や沿道商業施設の浸水など甚大な浸水被害が発生。7月8日午後までに浸水は解消。
- 大洲第二水位観測所の水位は、詳細な水位記録が存在する昭和38年以降で最高水位（8.11m）を記録。



国土交通省「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会」第一回資料より引用

## 肱川における浸水状況（菅田地区）

- 平成30年7月豪雨では、無堤区間及び霞堤箇所からの溢水により浸水面積約327ha、床上浸水約395戸、床下浸水約66戸の被害が発生（7月7日8時40分頃～15時10分頃まで浸水）。

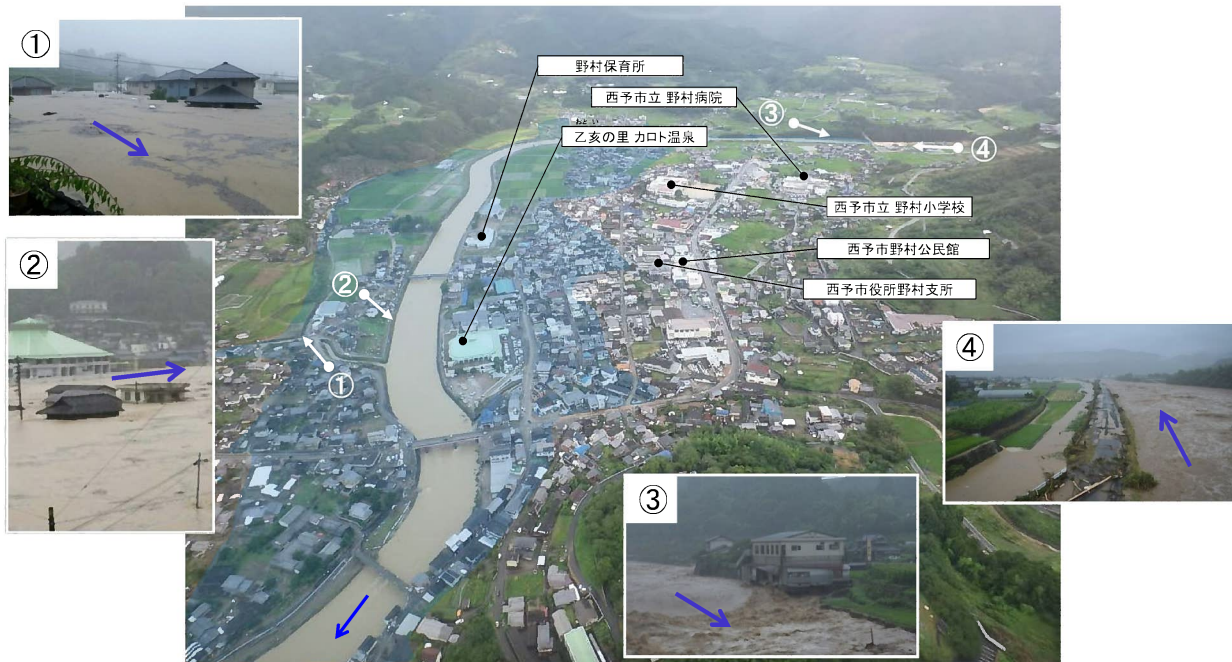


国土交通省「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会」第一回資料より引用



## 肱川における浸水状況（西予市野村地区）

- 野村ダム下流の西予市野村町では、昭和49年～平成8年までに県により河川改修事業を実施済。
- 平成30年7月豪雨では、計画を上回る洪水により浸水面積約70ha、床上浸水約570戸、床下浸水約80戸の被害が発生（7月7日6:30頃～10:00頃まで浸水）。



国土交通省「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会」第一回資料より引用